

JENESYS2015 招へいプログラム

(対象国：ミャンマー, テーマ：(文化)文化芸術交流(芸術)、(文化)日本語コミュニケーション・日本文化体験, 大学生・大学院生) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、ミャンマーより「日本文化」に関心を有する大学生・大学院生 63 名が来日し、日本の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、3 月 22 日から 3 月 29 日までの 7 泊 8 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

ミャンマー 63 名

3. 訪問地

東京都、福岡県

4. 日程

3 月 22 日(火) 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション

3 月 23 日(水) 【日本理解講義、基調講演】

2 つのグループに分かれて福岡県へ移動

3 月 24 日(木)～3 月 27 日(日)

1. (文化)文化芸術交流(芸術)グループ

【歴史・伝統文化】大濠公園 能楽堂 能楽体験

【学校交流】九州大学大学院比較社会文化研究院

【地場産業視察】TOTO ミュージアム

【歴史・伝統文化】太宰府天満宮、九州国立博物館

【ホームステイ対面式】【ホームステイ】【ホームステイ歓送会】

【ワークショップ】

2. (文化)日本語コミュニケーション・日本文化体験グループ

【日本語フィールドワーク】福岡県内の大学生(櫛田神社、東長寺、交流会)

【地場産業視察】シャボン玉石けん工場

【歴史・伝統文化】福岡市文化交流公園 松風園、茶道体験

【ホームステイ対面式】【ホームステイ】【ホームステイ歓送会】

【ワークショップ】

3 月 28 日(月) 地方プログラム終了後、東京へ移動【報告会】

3 月 29 日(火) 成田国際空港より出国

5. JENESYS2015プログラム記録写真



3/24 九州国立博物館



3/24 日本語フィールドワーク（櫛田神社・東長寺見学）



3/24 九州大学 学校交流



3/24 大濠公園 能楽堂 能楽体験



3/25 TOTO ミュージアム



3/28 報告会

6. 参加者の感想

◆ ミャンマー大学生

日本と聞くと誰もが進んだ技術や生活水準の高さ、時間の正確さ、秩序正しい人々が住んでいる国だと思うことでしょう。今回の日本での体験は、すし、味噌、着物、カメラ、新幹線などを実際に目の当たりにし、驚きの連続でした。常に往来が激しい東京は、道路は入り組んでいても秩序正しく動いています。規模は小さいけれど緑の豊かな森もあり、まさに東京は日本の発展の証しです。特色豊かな地方や昔ながらの文化が残る庭園、記念公園、昔の城郭、寺、神社等の日本文化をととても好ましく感じました。国際的な流れが進展するとともに自分たちの固有の文化が失われがちな中、日本では伝統的な茶道や着物、相撲等の文化を老若男女が楽しんでおり、これらの文化が日本では失われることはないのだと分かりました。最後に、日本人のミャンマーに対する見解について、あるテレビプログラムで「ミャンマーの変化は日本の将来の発展と繋がる」というようなことを言っていたことを聞いて、とても嬉しかったです。発展した日本を見て、いつかミャンマーも発展の道へと変わることを期待しています。

◆ ミャンマー大学生

日本人は時間厳守で、約束した時間の 5 分前に来るのが美德とされています。何をするにも時間を決めて計画を立てます。桜が咲いたことでさえも、テレビで大切に発表・報道するほど平和な国です。250 年以上前、日本は鎖国時代で、“外国人を日本本土へ入れない、日本人を外国へ行かせない”という政策を取りましたが、今は非常にオープンです。これらを含め、私たちが学んだ日本の歴史について、帰国後ミャンマーの人びとに伝えます。日本の文化、宗教信仰、服装、規則正しさについて、私たちが経験したことを例に挙げて伝えたいと思います。また、九州大学でのワークショップを通じて得られた日本の教育のことについて、講演会を開きます。例えば、日本は中学校まで義務教育であること、中学校を卒業したら、それぞれの学生が自分の興味や希望から進学先を決めることができるということ、一つの学級の生徒数を少なくする、少人数制教育などを講演したいと思います。日本人の優しさ、規則正しさについても発表したいです。

◆ ミャンマー大学生

日本に到着後、日本の発展の象徴として、多くの巨大な建造物を目の当たりにしました。プログラムの中では、ホームステイが大変印象深かったです。ホストファミリーのお母さんはとても心のきれいな方です。日本人は文化を大切にしています。自国の文化のみならず、他の国の文化をも大切にしています。日本人は仕事をする時、計画的に作業すると思います。今回、私たちの日本の旅にも、時間を正確に細かく企画していました。見習わなければならないことの一つは、大都会のみならず、地方でも全くごみがないことです。ミャンマーに帰ったら、友人、先生、両親、親せきや他の人たちに日本のことを伝え、共有したいです。日本人の道徳、習慣、日本社会の規則が非常に気に入ったので、必ず伝えたいです。日本とミャンマーの発展の差とその原因を皆で共に考えていきたいです。九州国立博物館の展示品のことも伝えたいと思います。日本がミャンマーと比べ寒いということも付け加えたいです。

7. 参加者の報告会での報告内容(帰国後の発信計画)

WHEN : (When will it be done?) いつやるか From June 2016 to August 2016 WHO : (Who will do it?) 誰がやるか -Members who visited Japan in JENESYS2015 program WHO : (To whom?) 誰に対してやるか - University students, staffs Neighborhood, community	WHAT : (Details of the action) 何をやるか HOW : (How to do) どうやってやるのか - Throwing rubbish separately; e.g. plastic, compost, water bottle, paper; will be described on handout papers - The fact that lining (queuing) systematically whatever they do, will be advertised (recommended) on notice boards of universities and colleges - By holding seminars, by describing in annual magazines and by making web-page
参加者の報告会での帰国後の発信内容	参加者の報告会での帰国後の発信内容
WHEN : (When will it be done?) いつやるか Start in June WHO : (Who will do it?) 誰がやるか - We ourselves JENESYS programme participants and our seniors WHO : (To whom?) 誰に対してやるか - People in and around universities and colleges All teachers and all friends	WHAT : (Details of the action) 何をやるか HOW : (How to do) どうやってやるのか - Educative discussions - Combined or coordinated activities - Irradiate people through SNS, fliers or posters - Lectures and coordinated activities with respective lecture - Organise training teams in competition with organised with arts associations Commemorative competitions
参加者の報告会での帰国後の発信内容	参加者の報告会での帰国後の発信内容